

## 『スペイン語で詠う小倉百人一首』

伊藤昌輝

私は若い頃から日本文学をスペイン語の世界に紹介したいという“夢”をなんとなく抱いていました。そこで現役引退後いよいよその“夢”に挑戦することにし、先ず「方丈記」から始めました。これはベネズエラとアルゼンチンで出版されましたが、その後これまでに室町末期の小歌を集めた「閑吟集」（アルゼンチン）、平安末期の今様歌謡集である「梁塵秘抄」（ベネズエラ）、芭蕉の「日記・紀行文集」（アルゼンチン）、西鶴の「世間胸算用」（ベネズエラ）などを訳してきました。

今年の正月、日本の若い人たちのあいだでも「百人一首」への関心が高まりつつあると聞き、また日本人を理解したいと思うなら「百人一首」をお読みなさいと述べていた外国の文化人のことばを思い出しました。そこで、昨年『スペイン語で奏でる方丈記』（日西対訳版）を出していただいた神戸の大盛堂書房さんに相談しますと、二つ返事で引き受けていただきました。

『百人一首』は、『伊勢物語』『源氏物語』とともに、日本文学のなかでももっとも影響力をもった古典の一つとされています。数百年にわたり、日本古来の詩歌の入門書であり、今でも日本全国の中学や高校の授業で読み継がれています。しかも「かるた」という形になったことで、子供から大人まで、遊びながら優雅な王朝時代の歌を覚えられ、暗誦されている方も多いようです。そしてこれら古（いにしえ）の詩歌に流れる赤裸々な感情は日本人の本来の心を写し出しており、その意味で日本人の心や性(さが)を知る最良の入門書と言っても過言ではありません。また、宮中の新年の歌会始は世界に類のない国民参加の文化行事です。天皇皇后両陛下の御前で、外国人を含む一般市民が応募した二万もの歌のうちの十首が、両陛下やほかの皇族の和歌とともに読み上げられます。中村真一郎氏は、「日本の文化とは平安文化であり、その以前の時代はそれを準備し、それ以後の時代はそれの様ざまの変形である...だから私たちは王朝を学ぶことによって、日本そのものを学ぶことになる」と述べておられます。

さて、いざ翻訳にとりかかると多くの難問に遭遇しました。和歌には五七五七七という三十一音、五句から成る短歌の形式があります。しかし、それに拘泥すると原作の気持ちを十分に伝えることが困難になります。和歌には枕詞や掛詞もあります。そこで、私は和歌の形式にはこだわらず、むしろ原作のところに忠実に、かつ読みやすく、しかも詩的な翻訳を心がけることにしました。

たとえば、あの有名な蝉丸の歌は次のように訳しました。

これやこの  
行くも帰るも  
別れては  
知るも知らぬも  
逢坂の関

*¡ Así que éste es el lugar !  
La muchedumbre,  
viniendo, yendo  
encontrándose, desencontrándose ;  
amigos, forasteros,  
conocidos, desconocidos —  
La Barrera de Osaka.*

また小野小町の歌は、

花の色は  
うつりにけりな  
いたづらに  
わが身世にふる  
ながめせしまに

Una vida en vano.  
Mi apariencia y encanto se desvanecieron,  
como estas flores de cerezo  
que palidecen en las lluvias interminables,  
mientras las contemplo, a solas.

スペイン語訳の監修は上智大学外国語学部イスパニア語学科のエレナ・ガジェゴ・アンドラーダ先生にお願いしました。また、この本のユニークなところは、京言葉のプロ朗読者による原文の朗詠とスペイン語監修者のスペイン語朗読CDが付き、日本語とスペイン語の両言語で百人一首を鑑賞できることです。

現代の日本人にとっても古い時代の日本語を読むのは苦手という方も少なくないでしょう。自国の言語の古典を異なる言語で読み、異なる文化のプリズムを通して、新たな視点で自らの文化を見直すというのも実に興味深い試みではないでしょうか。

(大盛堂書房刊、定価1,944円(8%税込)、アマゾンドットコム、楽天ブック、セブンアンドアイ、hontoネットストア等のネット通販も可。)